



イーブイエー
ダイレクト年金 e-VA

新変額個人年金保険（無配当）
特別勘定グループ（GW）

特別勘定マンスリーレポート

特別勘定の名称	主な運用対象の投資信託	投資信託の運用会社
日本株インデックス型(GW)	インデックスファンド225VA (適格機関投資家向け)	日興アセットマネジメント株式会社
日本株アクティブ型(GW)	フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3 (適格機関投資家専用)	フィデリティ投信株式会社
海外株式型(GW)	ステート・ストリート外国株式 インデックス・ファンドVA1(適格機関投資家専用)	ステート・ストリート投信投資顧問 株式会社
新興成長国株式型(GW)	JPM・BRICS5・ファンド (適格機関投資家転売制限付)	JPモルガン・アセット・マネジメント 株式会社
海外債券型(GW)	ピムコ・海外債券ファンド (適格機関投資家専用)	ピムコジャパン リミテッド
日本債券型(GW)	MHAM物価連動国債ファンドVA (適格機関投資家専用)	みずほ投信投資顧問株式会社
海外リート型(GW)	ノムラ海外REIT インデックス ファンドVA(適格機関投資家専用)	野村アセットマネジメント株式会社
マネープール型(GW)	フィデリティ・マネー・プールVA (適格機関投資家専用)	フィデリティ投信株式会社

〈引受保険会社〉



アクサ フィナンシャル生命保険株式会社

160-8335 東京都新宿区西新宿1-23-7 新宿ファーストウエスト10F
TEL 03-6911-9100 FAX 03-6911-9260
<http://www.axa-financial.co.jp>

特別勘定名称

日本株インデックス型(GW)

運用方針

国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、日経平均株価に連動した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1か月	3か月	6か月	1年	設定来
日本株インデックス型(GW)	▲2.36%	▲8.86%	▲15.36%	▲11.24%	▲7.84%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	2.4%
投資信託	97.6%
合計	100.0%

【参考】日本株インデックス型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

インデックスファンド225VA(適格機関投資家向け)

(運用会社: 日興アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

	3か月	6か月	1年	3年	設定来
インデックス225VA	▲ 8.80%	▲ 15.26%	▲ 10.38%	10.87%	10.47%
日経平均株価(225種・東証)	▲ 8.80%	▲ 15.61%	▲ 11.13%	10.04%	9.77%
差異	0.00%	0.35%	0.75%	0.83%	0.70%

<純資産総額>

純資産総額 299.78億円

※収益率は、1年以上の場合、年率ベースで、1年未満(3か月間、6か月間)は、年率換算していません。
 ※ファンド(分配金再投資)の収益率は、当ファンド決算時に分配金があった場合の分配金を再購入(再投資)し、算出しています。
 ※収益率・リスクともに月次の収益率より算出しています。設定日が月中の場合、設定日が属する月は含んでいません。

<株式組入上位10業種>

業種名	ファンドのウェイト
1 電気機器	22.21%
2 情報・通信	8.77%
3 化学	7.17%
4 輸送用機器	6.96%
5 医薬品	6.66%
6 機械	5.18%
7 小売	4.91%
8 精密機器	4.14%
9 食料品	4.02%
10 卸売	3.20%

※ファンドのウェイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

<株式組入上位10銘柄>

銘柄名	ファンドのウェイト
1 ファナック	2.91%
2 京セラ	2.65%
3 KDDI	2.23%
4 TDK	2.23%
5 ファーストリテイリング	2.14%
6 キヤノン	2.09%
7 ホンダ	2.01%
8 信越化学工業	1.88%
9 ソフトバンク	1.86%
10 東京エレクトロン	1.84%

(組入銘柄数225銘柄)
 ※ファンドのウェイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

<資産構成>

株式	99.78%
一部上場	99.78%
二部上場	0.00%
地方単独	0.00%
ジャスダック	0.00%
その他	0.00%
株式先物	0.22%
株式実質	100.00%
現金その他	0.22%

※当ファンドの実質の組入比率です。

<運用コメント>

月初15,680円67銭の日経平均株価は、欧米株式市場の下落と為替相場の円高などを受け、軟調に始まりました。その後、米国政府によるサブプライムローン(信用度の低い借り手への融資)の借り手救済策発表で米国の景気減速懸念が後退すると、買い安心感が広がり、日経平均株価は16,000円近傍まで反発しました。中旬には、米国の小幅な利下げが投資家の失望売りを誘って米国株式市場が急落し、日経平均株価も反落しました。サブプライムローン問題に絡み、欧米の主要中央銀行が協調で資金供給を実施するとの発表も、市場では同問題の深刻さを示すと受け止められました。下旬には、米国株式市場の反発などを背景とした値ごろ感からの買いで日経平均株価はやや強含んだ後、米国株式市場の下落と円高に押されて反落し、15,307円78銭で月末を迎えました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

日本株アクティブ型(GW)

国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることを目指します。

運用方針

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をも「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
日本株 アクティブ型 (GW)	▲3.13%	▲7.32%	▲12.16%	▲9.00%	▲6.04%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	3.1%
投資信託	96.9%
合計	100.0%

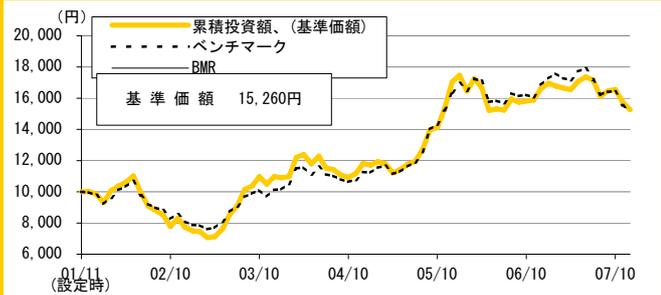
【参考】日本株アクティブ型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3(適格機関投資家専用)

(運用会社:フィデリティ投信株式会社)

- ①主として日本株を投資対象とします。
- ②個別企業分析により、成長企業を選定し、利益成長性等と比較して妥当と思われる株価水準で投資を行ないます。

設定来の運用実績 (2007年12月28日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、申込手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。ベンチマークはファンド設定日前日を10,000円として計算しています。
※基準価額は信託報酬控除後のものです。

<運用コメント>

12月の東京株式市場は、米景気の先行き不透明感が重石となり、月間ではマイナスとなりました。前月下旬に急上昇した反動から月初の株価は小安く始まりました。米政府によるサブプライムローン救済策を好感した米株高につられTOPIXも上昇したものの長続きはせず、その後は米連邦公開市場委員会(FOMC)での利下げ幅が市場予想に届かなかったことをきっかけに反落に転じました。加えて米金融機関におけるサブプライム関連損失の更なる拡大懸念や米国内で計画されているサブプライム対策基金に対して国内メガバンクへ融資要請がなされたとの報道など悪材料も続き、TOPIXは大きく値を崩すこととなりました。外部環境が落ち着きを見せると戻り歩調を辿る場面もありましたが、月末にかけては米景気の鈍化を示唆するマクロ経済指標や地政学リスクの高まりが投資家心理を冷やすこととなり、TOPIXは1500ポイントを割り込んだ水準で年末を迎えました。月間の騰落率は、TOPIX(配当金込)が▲3.61%、日経平均株価は▲2.38%となりました。上昇した業種は、鉱業、情報・通信業、小売業でした。下落した業種は、海運業、不動産業、その他金融業などでした。

商品概要	2008年1月(月次改訂)
形態	追加型株式投資信託/国内株式型(一般型)
投資対象	わが国の株式等
設定日	2001年11月29日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

累積リターン	(2007年12月28日現在)				
	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	設定来
ファンド	▲3.12%	▲7.28%	▲12.08%	▲8.27%	52.60%
ベンチマーク	▲3.61%	▲8.64%	▲16.34%	▲11.11%	49.87%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。
※ベンチマーク：TOPIX(配当金込)

設定来の収益分配金(税込み)	
第2期(2003.12.01)	0円
第3期(2004.11.30)	0円
第4期(2005.11.30)	0円
第5期(2006.11.30)	0円
第6期(2007.11.30)	0円

純資産総額 2,124.9 億円 (2007年12月28日現在)

組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース)	(2007年12月28日現在)		
順位	銘柄	業種	比率
1	ダイキン工業	機械	4.2%
2	三菱電機	電気機器	4.0%
3	トヨタ自動車	輸送用機器	3.2%
4	第一三共	医薬品	2.4%
5	スズキ	輸送用機器	2.3%
6	ヤマダ電機	小売業	2.3%
7	三菱商事	卸売業	2.1%
8	日本電産	電気機器	2.0%
9	ニコン	精密機器	2.0%
10	三井物産	卸売業	1.9%

(組入銘柄数:226) 上位10銘柄合計26.4%(対純資産総額比率)
※「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド」は、組入上位10銘柄の対象から除いています。

ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース)

<資産別組入状況>

株式	98.1%
新株予約権証券(ワラント)	-
投資信託・投資証券	0.3%
現金・その他※	1.6%

※「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド」1.5%を含みます。

<市場別組入状況>

東証1部	91.9%
東証2部	-
ジャスダック	0.2%
その他市場	6.3%

<組入上位5業種>

電気機器	18.6%
小売業	9.6%
輸送用機器	9.3%
機械	6.6%
卸売業	6.0%

(対純資産総額比率)

*各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

*ファンドは短期資金の運用の一環として、委託会社が設定した「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」に投資する場合があります。これはあくまでも短期資金の運用であるため、組入上位10銘柄、市場別組入状況には含めず、資産としては「現金・その他」に分類いたしております。なお、未払金等の発生により、「現金・その他」の数値が「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」の数値を下回ることがあります。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

海外株式型(GW)

運用方針

日本を除く主要先進国企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、MSCI KOKUSAIインデックスに連動した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(06/09)を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
海外株式型 (GW)	3.36%	▲3.05%	▲6.58%	4.40%	12.87%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	2.1%
投資信託	97.9%
合計	100.0%

【参考】海外株式型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

ステート・ストリート外国株式インデックス・ファンドVA1(適格機関投資家専用)

(運用会社:ステート・ストリート投信投資顧問株式会社)

<基準価額の騰落率>

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
ステート・ストリート 外国株式インデックス・ ファンドVA1	3.53%	▲2.87%	▲6.34%	5.75%	112.59%
MSCIコクサイ インデックス (円換算)	3.55%	▲2.71%	▲6.01%	6.65%	125.52%
差異	▲0.02%	▲0.16%	▲0.34%	▲0.90%	▲12.93%

<総資産総額>

純資産総額 8,097百万円

<組入銘柄数>

銘柄数(マザーファンド) 1,563

<信託財産構成比>

項目	国名	比率	
外国株式	[全体]	95.9%	
	<北米>	54.5%	
		アメリカ	50.1%
		カナダ	4.3%
	<アジア・太平洋>	5.2%	
		オーストラリア	3.3%
		香港	1.2%
		シンガポール	0.6%
		ニュージーランド	0.1%
	<ヨーロッパ>	36.2%	
		イギリス	11.6%
		フランス	5.5%
		ドイツ	4.8%
		スイス	3.4%
		オランダ	1.5%
		イタリア	2.0%
		スペイン	2.3%
	スウェーデン	1.2%	
	フィンランド	1.0%	
	ベルギー	0.6%	
	アイルランド	0.3%	
	デンマーク	0.5%	
	ノルウェー	0.6%	
	ギリシャ	0.4%	
	ポルトガル	0.2%	
	オーストリア	0.3%	
その他(現金及び株価指数先物)		4.1%	

<外国株式組入上位10銘柄>

	銘柄	国	業種	比率
1	EXXON MOBIL CORP	アメリカ	エネルギー	1.9%
2	GENERAL ELECTRIC CO	アメリカ	資本財	1.4%
3	MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.1%
4	AT & T INC	アメリカ	電気通信サービス	1.0%
5	BP PLC	イギリス	エネルギー	0.9%
6	PROCTER & GAMBLE CO	アメリカ	家庭用品・パーソナル用品	0.9%
7	VODAFONE GROUP PLC	イギリス	電気通信サービス	0.7%
8	CHEVRON CORPORATION	アメリカ	エネルギー	0.7%
9	HSBC HOLDINGS PLC	イギリス	銀行	0.7%
10	JOHNSON&JOHNSON	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	0.7%

※マザーファンド・ベース
※比率は対純資産で計算しています。

<運用コメント>

<12月の市場概況>

12月の米国株式市場は、政府のサブプライム問題対策案が好感されたことなどから、株価は中旬にかけて上昇しました。しかし、11日のFOMCの利下げ幅が一部の予想を下回っていたことや、11月の物価指数が大幅に上昇したことなどから、スタグフレーション懸念が高まり、株価は下旬にかけて下落しました。その後、欧米大手金融機関に対する政府系ファンドの出資などで、株価は一時上昇するものの、経済指標が失望的であったために株価は反落しました。ダウ平均は13,264.82(前月比-0.80%)、ナスダック総合は2,652.28(前月比-0.33%)、S&P500指数は1,468.36(前月比-0.86%)で終了しました。

欧州市場は、BoEによる利下げ期待が高まったことや、原油などの商品価格が上昇したことなどから、株価は中旬にかけて堅調に推移しました。その後、欧米金融機関の追加損失の発表などから、株価は一時下落しましたが、米大手金融機関に対する政府系ファンドの出資などが好感され、月末にかけて株価は反発しました。英FT指数は6,456.90(前月比+0.38%)、仏CAC指数は5,614.08(前月比-1.00%)、独DAX指数は8,067.32(前月比+2.50%)で終了しました。

アジア市場は、FOMCによる3回目の利下げが好感されたことや、政府系ファンドによる米銀への出資が好感され、株価は中旬にかけて堅調に推移しました。しかし、米国に対する景気後退懸念は根強く、株価は月末にかけて下落しました。豪ASX200指数は6,339.80(前月比-2.96%)、香港ハンセン指数は27,812.65(前月比-2.90%)で終了しました。

MSCIコクサイ指数パフォーマンス(TTM換算ベース、12月28日基準)は前月比+3.55%となりました。

※マザーファンド・ベース
※比率は対純資産で計算しています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

新興成長国株式型(GW)

運用方針

新興成長国の企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的な成長を目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
新興成長国株式型(GW)	5.10%	5.75%	21.37%	42.62%	72.83%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	3.5%
投資信託	96.5%
合計	100.0%

【参考】 新興成長国株式型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

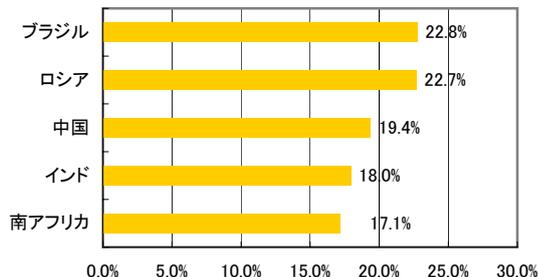
JPM・BRICS5・ファンド(適格機関投資家転売制限付) (運用会社:JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

	1ヶ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
JPM・BRICS5・ファンド	5.4%	6.4%	22.4%	45.9%	109.9%

※騰落率については、基準価額に税引き前分配金を再投資して計算しております。
※騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。
※ファンド設定日は2006年5月26日です。

<国別構成比率>



※マザーファンド・ベース
※比率は組入れ有価証券を100%として計算しております。

<国内株式組入上位10銘柄> (銘柄数 69銘柄)

順位	銘柄	国	業種	比率
1	PETROLEO BRASILE ADR	ブラジル	エネルギー	5.96%
2	CIA VALE DO RIO ADR	ブラジル	素材	5.16%
3	CHINA MOBILE LTD	中国	電気通信サービス	4.50%
4	HOUSING DEV FINANCE	インド	銀行	3.53%
5	MECHEL STEEL GRP ADR	ロシア	素材	3.21%
6	SBERBANK RF	ロシア	銀行	3.06%
7	JSC MMC NORILSK -ADR	ロシア	素材	2.72%
8	LARSEN & TOUBRO LTD	インド	資本財	2.59%
9	MTN GROUP LTD	南アフリカ	電気通信サービス	2.45%
10	CHINA LIFE INSURAN-H	中国	保険	2.43%

(2007年11月30日現在)

<運用コメント>

※マザーファンド・ベース ※比率は対純資産で計算しています。

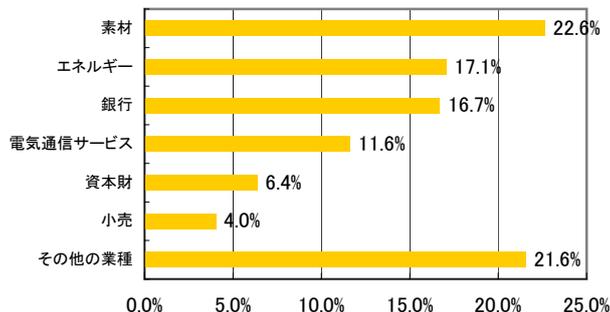
市場概況

当月のBRICS諸国を含むエマージング株式市場は、世界的な投資家のリスク志向性が中央銀行による資金供給や米国経済指標の動向に左右される中、前月末から概ね横ばいの水準で終了しました。セクター別の動向では、ブラジルのエネルギー、インド及びロシアの情報通信が好調だった一方で、中国の金融、南アフリカの情報通信は振るいませんでした。

運用状況

- ・当ファンドの月末基準価額は19,486円、前月比5.4%の上昇となりました。
- ・国別の投資比率では、当月振るわなかった南アフリカの投資比率を引き下げたことが奏功した一方で、当月好調だったインドの投資比率を基本資産配分に対して低くしていたことがパフォーマンスの足かせとなりました。
- ・銘柄選択では、中国における大手デパートチェーンや、婦人靴チェーンといった小売関連の個別銘柄がパフォーマンスに貢献しました。

<業種別構成比率>



※マザーファンド・ベース
※比率は組入れ有価証券を100%として計算しております。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

海外債券型(GW)

運用方針

日本を除く世界各国の公社債を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的に安定した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	設定来
海外債券型 (GW)	2.27%	2.02%	1.50%	3.98%	6.20%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	2.2%
投資信託	97.8%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(06/09)を「100」として指数化したものです。

【参考】海外債券型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

ピムコ・海外債券ファンド(適格機関投資家専用)

(運用会社:ピムコジャパン リミテッド)

<基準価額の騰落率>

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	設定来
ピムコ 海外債券ファンド	2.41%	2.35%	2.11%	5.31%	41.10%
ベンチマーク	1.94%	2.11%	1.95%	5.91%	42.33%
差異	0.47%	0.24%	0.16%	▲ 0.60%	▲ 1.23%

※ベンチマークは、シティグループ世界国債インデックス(除く日本、為替ヘッジなし)90%、1ヶ月日本円Libor10%を合成したものです。

<ファンドの一般特性>

平均クーポン	5.20%
平均直接利回り	5.02%
平均最終利回り	4.49%
平均デュレーション	6.16年
平均償還期間	8.60年
平均格付け	AA+
債券組入比率	98.82%

<国別構成比>

国名	組入比率
アメリカ	24.44%
ユーロ圏	55.37%
イギリス	15.92%
カナダ	2.34%
スウェーデン	0.58%
ポーランド	0.29%
オーストラリア	0.88%
日本	0.18%
合計	100.00%

<格付構成比>

格付	組入比率
AAA	63.30%
AA	7.86%
A	3.63%
BBB	0.90%
BB以下	0.00%
A1/P1	22.50%
A2/P2	1.81%
合計	100.00%

<種別別配分>

セクター名	組入比率
国債、エージェンシー債	73.30%
モーゲージ債、アセットバック債	17.83%
社債	7.47%
キャッシュ等*	1.40%
合計	100.00%

※「キャッシュ等」にはCP等も含まれます。

<運用コメント>

<市場コメント>

米国債券市場は、FRBの0.25%の追加利下げにより短期市場金利は低下したものの、サブプライムローンの借り手救済策による景気減速懸念の緩和やインフレ指標の上昇などにより軟調に推移しました(2年債は前月比0.01%、10年債利回りは前月比0.06%上昇しました。)

ユーロ圏債券市場は、ユーロ圏インフレ率が前年比3.1%上昇と前月からの伸びが加速する等、インフレ懸念が高まったことから軟調に推移しました(2年債は前月比0.13%、10年債利回りは前月比0.18%上昇しました。)。英国債券市場は、イングランド銀行(BOE)の利下げ実施と利下げ継続観測の高まりから、月を通じて堅調に推移しました(2年債は前月比0.16%、10年債利回りは前月比0.13%低下しました。)

日本債券市場は、米国雇用統計の上振れやサブプライムローン救済策への期待といった悪材料や、米国の景気減速懸念の高まりといった好材料が入り混じった結果、ほぼ横ばいで推移し、月を通じては小幅下落となりました(2年債利回りは0.05%低下、10年債利回りは前月比0.03%上昇しました。)

<パフォーマンス>

先月のパフォーマンスはプラス2.41%となり、ベンチマークを0.47%上回るパフォーマンスとなりました。米国で金利リスクを多めに取っていたことがマイナスとなったものの、米国の長短金利差の拡大を見越した戦略がプラスとなりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

日本債券型(GW)

運用方針

国内の物価連動債を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的に安定した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(06/09)を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
日本債券型 (GW)	0.07%	1.79%	2.10%	1.21%	0.65%

特別勘定資産内訳

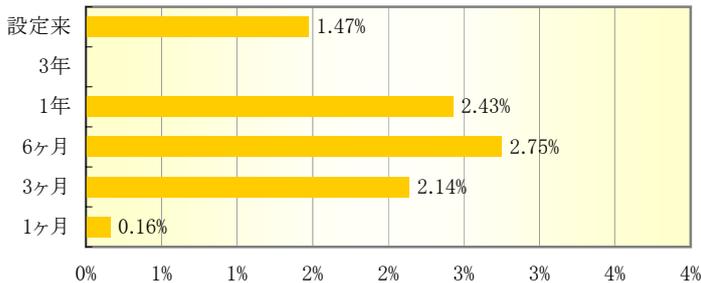
	構成比 (%)
現預金・その他	2.2%
投資信託	97.8%
合計	100.0%

【参考】日本債券型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

MHAM物価連動国債ファンドVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:みずほ投信投資顧問株式会社)

<期間別騰落率> 累積収益率



<ポートフォリオの状況>

組入銘柄数	4銘柄
公社債の平均残存期間	6.86年

※組入比率は純資産総額に対する比率を表示しています。

国内債現物	99.6%
国内債先物	0.0%
その他資産	0.4%

※その他資産は、100%から国内債現物・国内債先物の組入比率の合計を差し引いたものです。

<組入上位5銘柄の組入比率>

順位	銘柄名	利率	償還日	比率
1	第2回物価連動国債(10年)	1.100%	2014/06/10	42.0%
2	第4回物価連動国債(10年)	0.500%	2015/06/10	35.6%
3	第3回物価連動国債(10年)	0.500%	2014/12/10	13.3%
4	第1回物価連動国債(10年)	1.200%	2014/03/10	8.7%
5				

<公社債の残存期間別組入比率>

残存年数	比率
1年未満	0.0%
1年～3年	0.0%
3年～7年	64.0%
7年～10年	35.6%
10年以上	0.0%

※組入上位5銘柄の組入比率、公社債の残存期間別組入比率は純資産総額に対する比率を表示しています。

<運用コメント>

■先月の投資環境

第1回物価連動国債利回りは、12月末現在で0.741%と前月末比0.023%の利回り低下となりました。第1回物価連動国債とほぼ同じ期間の10年長期国債(第258回債)との複利利回り格差(物価連動国債が償還までにどれだけ物価上昇(年率)を織込んでいるかを示す値=ブレイクイーブンインフレ率)は、月初0.3%台半ばで始まり、中旬にかけて0.2%台半ばまで縮小しました。その後、月末にかけて0.3%台半ばまで拡大し、前月末比横ばいとなりました。

ブレイクイーブンインフレ率が横ばいであったものの、ほぼ同じ期間の10年長期国債利回りが低下(10年長期国債(第258回債)複利利回り0.020%の利回り低下)したため、第1回物価連動国債の利回りは小幅低下しました。第2回～第13回物価連動国債についても、ブレイクイーブンインフレ率はほぼ横ばいとなり、それぞれの物価連動国債利回りも横ばい、または小幅低下しました。

また、全国消費者物価指数(生鮮食品を除く総合指数。以下コアCPIという。)から算出する物価連動国債の12月末の連動係数は、11月末比0.1%程度上昇しました。

■先月の運用概況

物価連動国債を高位に組入れているポートフォリオを維持しました。

組入れた公社債の平均残存期間は6.86年となっております。

かかる運用の結果、ブレイクイーブンインフレ率がほぼ横ばいだったものの、10年長期国債利回りの低下や、物価連動国債の連動係数の上昇などがプラスに寄与したため、当ファンドの12月末の基準価額は10,076円と前月末比16円の上昇となりました。

■今後の運用方針

物価連動国債が参照する物価指数であるコアCPIの足元の状況については、12月に発表された11月の値が前年同月比で+0.4%となりました。中長期的に、景気拡大期待感などから、コアCPIは概ねプラス基調での推移が続くと考えております。

また、将来、消費税率の引き上げも想定され、期待インフレ率及びコアCPIには上昇圧力がかかることが見込まれます。

こうした状況下、当ファンドでは、近い将来の期待インフレ率及びコアCPIの上昇に備え、物価連動国債を高位に組入れている現状のポートフォリオを維持していく方針です。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

海外リート型 (GW)

運用方針

日本を除く世界各国の上場不動産投信 (REIT=Real Estate Investment Trust)を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、S&Pシティグループ・グローバルREITインデックス (除く日本、配当込み、円換算ベース)に連動した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1か月	3か月	6か月	1年	設定来
海外リート型 (GW)	▲0.49%	▲13.28%	▲17.40%	▲16.73%	▲9.32%

特別勘定資産内訳

	構成比 (%)
現預金・その他	2.9%
投資信託	97.1%
合計	100.0%

【参考】 海外リート(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

ムラ海外REIT インデックス・ファンドVA (適格機関投資家専用)

(運用会社:野村アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

	1か月	3か月	6か月	1年	設定来
ムラ海外REITインデックス ファンドVA	▲0.5%	▲13.6%	▲17.6%	▲16.1%	▲0.7%
ベンチマーク	▲0.3%	▲13.5%	▲17.4%	▲15.5%	1.2%

「S&Pシティグループ・グローバルREITインデックス (除く日本)」はザ・マグロウヒル・カンパニーズの所有する登録商標であり、野村アセットマネジメントに対して利用許諾が与えられています。スタンダード&プアーズは本商品を推奨・支持・販売・促進等するものではなく、また本商品に対する投資適格性等に関しいかなる意思表示等を行なうものではありません。

※収益率の各計算期間は、作成基準日から過去に遡った期間としております。

※ベンチマークである、S&Pシティグループ・グローバルREITインデックス (除く日本、配当込み、円換算ベース)はS&Pシティグループ・グローバルREITインデックス (除く日本、配当込み、ドルベース)を委託会社において円換算したものです。

<資産配分比率>

資産種別	総資産比
REIT (リート)	99.0%
その他	1.0%
合計(※)	100.0%

※先物の建て玉のある場合は、合計欄を表示していません。

※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

<通貨別配分>

通貨	総資産比
日本円	0.1%
外貨計	99.9%
アメリカドル	54.1%
ユーロ	9.9%
イギリスポンド	9.8%
その他外貨	26.2%

<国・地域別配分>

国・地域	総資産比
アメリカ	53.9%
オーストラリア	20.2%
イギリス	9.8%
フランス	6.7%
オランダ	2.2%
その他の国	7.2%
合計	100.0%

※国名は発行国で区分しております。

<REIT 組入上位10銘柄>

	銘柄名	国・地域名	総資産比
1	WESTFIELD GROUP	オーストラリア	7.2%
2	SIMON PROPERTY GROUP INC	アメリカ	3.9%
3	UNIBAIL RODAMCO	フランス	3.5%
4	PROLOGIS	アメリカ	3.2%
5	LAND SECURITIES GROUP PLC	イギリス	2.8%
6	VORNADO REALTY TRUST	アメリカ	2.3%
7	BOSTON PROPERTIES	アメリカ	2.2%
8	STOCKLAND TRUST GROUP	オーストラリア	2.1%
9	GENERAL GROWTH PROPERTIES INC	アメリカ	2.0%
10	EQUITY RESIDENTIAL	アメリカ	2.0%

※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

<市場コメント>

●米国の追加利下げ観測や米国サブプライムローン救済策発表などから米国リート市場は上昇してはまりましたが、FRBの利下げ実施幅が市場の予想を下回ったことや米国景気後退懸念などから反落し、米国リート市場をはじめ主要リート市場は月間では下落しました。(野村アセットマネジメント作成)

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載しておりますので必ずご参照ください。

<純資産総額>

純資産総額 12.3 億円

<組入銘柄数>

組入銘柄数 237 銘柄

特別勘定名称

マネープール型(GW)

運用方針

他の特別勘定で運用している資金の一時退避を目的とし、国内の公社債および短期金融商品等を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、安定した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(07/06)を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	設定来
マネープール型 (GW)	▲0.05%	▲0.15%	▲0.29%	▲0.58%	▲0.72%

特別勘定資産内訳

	構成比 (%)
現預金・その他	65.9%
投資信託	34.1%
合計	100.0%

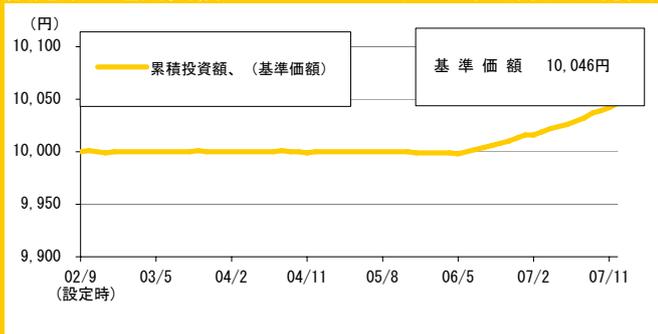
【参考】マネープール型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

フィデリティ・マネー・プールVA(適格機関投資家専用)

(運用会社: フィデリティ投信株式会社)

◆本邦通貨表示の公社債等を主要な投資対象とし、安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行いません。

設定来の運用実績 (2007年12月28日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。
 ただし、申込手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。
 ※当ファンドは、ベンチマークを設定しておりません。
 ※基準価額は信託報酬控除後のものです。

商品概要 2008年1月(月次改訂)

形態	追加型株式投資信託/バランス型
投資対象	本邦通貨表示の公社債等
設定日	2002年9月20日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

累積リターン (2007年12月28日現在)

	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	設定来
ファンド	0.04%	0.09%	0.20%	0.33%	0.46%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。

設定来の収益分配金 (税込み)

第2期(2003.12.01)	0円
第3期(2004.11.30)	0円
第4期(2005.11.30)	0円
第5期(2006.11.30)	0円
第6期(2007.11.30)	0円

純資産総額 103.6 億円 (2007年12月28日現在)

(2007年12月28日現在)

<資産別組入状況>

債券	91.8%
CP	-
CD	-
現金・その他	8.2%

<組入資産格付内訳>

長期債券格付	AAA/Aaa	-
	AA/Aa	91.8%
短期債券格付	A	-
	A-1/P-1	-
	A-2/P-2	-
現金・その他		8.2%

平均残存日数 59.46日

平均残存年数 0.16年

格付は、S&P社もしくはムーディーズ社による格付を採用し、S&P社の格付を優先して採用しています。(「プラス/マイナス」の符号は省略しています。)なお、両社による格付のない場合は、「格付なし」に分類しています。

組入上位10銘柄(マザーファンドベース) (2007年12月28日現在)

	銘柄	種類	格付	比率
1	486 政府短期証券	債券	AA/Aa	17.8%
2	491 政府短期証券	債券	AA/Aa	17.8%
3	476 政府短期証券	債券	AA/Aa	8.9%
4	485 政府短期証券	債券	AA/Aa	8.9%
5	480 政府短期証券	債券	AA/Aa	5.9%
6	481 政府短期証券	債券	AA/Aa	5.9%
7	482 政府短期証券	債券	AA/Aa	5.9%
8	484 政府短期証券	債券	AA/Aa	5.9%
9	487 政府短期証券	債券	AA/Aa	5.9%
10	489 政府短期証券	債券	AA/Aa	5.9%

(組入銘柄数 : 11)

上位10銘柄合計 88.8%
(対純資産総額比率)

* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

ご注意いただきたい事項

▲ 投資リスクについて

この保険の積立期間(運用期間)中の運用は特別勘定で行われます。特別勘定資産の運用実績に基づいて死亡給付金額、年金額および解約払戻金額等が変動(増減)します。特別勘定資産の運用は、株式および公社債等の価格変動等と為替変動等に伴う投資リスクがあり、運用実績によってはお受け取りになる年金額や解約払戻金額の合計額が一時払保険料を下回ることがあります。これらのリスクはすべてご契約者に帰属します。

▲ 元本欠損が生じる場合があります

諸条件により、ご契約者などが受け取る金額の合計額が、お払込保険料の合計額を下回る場合もあります。保険会社の業務又は財産の状況により、年金額、給付金額、解約払戻金額等が削減されることがあります。

▲ 諸費用について

契約初期費	一時払保険料(増額保険料を含む)に対して 5% を特別勘定繰入前に控除します。
保険関係費	特別勘定の資産総額に対して (年率 0.75% +運用実績に応じた費用(※))/365日を毎日控除します。 ※ 運用実績に応じた費用:運用実績を毎日判定し、実績が年率 1.5% を超過した場合のみ、 超過分1%あたり0.1%(上限1.25%) を控除します。
契約管理費	基本保険金額が100万円未満のご契約に対し、 毎月500円 を積立金から控除します。
移転費用	積立金の移転が年間13回以上のとき、 移転一回につき1,000円 を、 保険会社が移転を受け付けた日末に積立金から控除します。
年金管理費	年金支払開始日以後、支払年金額の 1% を年金支払日に控除します。
資産運用関係費	日本株インデックス型(GW) 年率0.42%程度
	日本株アクティブ型(GW) 年率0.924%程度
	海外株式型(GW) 年率0.399%程度
	新興成長国株式型(GW) 年率1.155%程度
	海外債券型(GW) 年率0.9135%程度
	日本債券型(GW) 年率0.252%~0.3675%程度
	海外リート型(GW) 年率0.42%程度
	マネープール型(GW) 年率0.008925%~0.525%程度

資産運用関係費は将来変更されることがあります。

その他お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

その他ご注意いただきたい事項

- 当資料は、特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。
- 新変額個人年金保険「ダイレクト年金 e-VA」は、生命保険商品であり投資信託ではありません。また、ご契約者様が直接投資信託を保有されている訳ではありません。
- 新変額個人年金には複数の特別勘定グループが設定されており、「グローバル・ウィン」には「特別勘定グループ(GW)」が設定されています。保険料繰り入れおよび積立金の移転は「特別勘定グループ(GW)」に属する特別勘定に限定されます。「特別勘定グループ(GW)」以外の特別勘定グループに属する特別勘定への保険料の繰り入れおよび積立金の移転はできません。
- 特別勘定および特別勘定の主な運用対象となる投資信託の内容が変更されることがあります。
- 特別勘定資産の運用実績は、特別勘定が主な投資対象とする投資信託の運用実績とは異なり、一致するものではありません。これは、特別勘定は投資信託のほかに、保険契約の異動等に備えて一定の現預金等を保有していることや、積立金の計算にあたり投資信託の値動きには反映されていない保険にかかる費用等を特別勘定資産から控除していることなどによるものです。
- ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で、各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

ご検討に際しては、「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)」をご契約前に十分にお読みいただき、投資リスクや負担いただく諸費用等の内容についてご確認・ご了解ください。また、「ご契約のしおり-約款」、「特別勘定のしおり」等をあわせてご覧のうえ、お申込みいただきますようお願いいたします。詳細につきましては弊社のホームページサイトをご覧ください。